

プレスリリース：2026.10.01

一般社団法人コンテンポラリーアートプラットフォーム

報道関係者各位

都内 56 のアートを巡る無料シャトルバス「AWT BUS」のルート発表！各種プログラムの事前予約の受付開始



11月6日(金)～8日(日)の3日間運行する「AWT BUS」。

2026年11月4日（水）～8日（日）の5日間にわたり開催する「[アートウィーク東京](#)（以下、AWT）」。
会期中に参加施設をつなぐ無料のシャトルバス「AWT BUS」のルートを公開しました。また、親子で楽しめるワークショップやアート教育付きの託児所、東京の名建築を巡る「TOKYO HOUSE TOUR」、コレクター初心者向けのミートアップなど、各種プログラムの事前予約も受付を開始しました。

アートウィーク東京について

アートウィーク東京（AWT）は、東京の現代アートの創造性と多様性を国内外に発信する年に一度のイベントです。いわゆる「メイン会場」はありません。都内 56 の美術館・ギャラリーがそれぞれ開催する展覧会のほか、AWT 独自のプログラムや関連イベントなどを自由に巡ることで、東京のアートやカルチャーの「いま」に触れていただけます。

無料シャトルバス「AWT BUS」のルート公開！展覧会割引も

11月6日（金）～8日（日）の3日間運行する「[AWT BUS](#)」は、AWT の参加美術館や参加ギャラリー、プログラム会場をつなぐ無料のシャトルバスです。

今年は各エリアを回る6つの巡回便のほか、表参道の「AWT BAR」と大手町の「AWT VIDEO」をダイレクトに移動できる直行便を運行します。午前10時から午後6時まで運行し、どのバス停からも乗り降りは自由です。

また「AWT BUS」のバス停やAWT 参加美術館内に設置されるAWT デスクでは、「AWT 参加証（リストバンド）」を配布。参加美術館のチケットカウンターでリストバンドを提示すると、一部の展覧会で割引が適用されます。

各ルートは[こちら](#)から。

「AWT BUS」開催概要

運行日時：11月6日（金）～8日（日）10:00～18:00

料金：無料

各バス停を約15分間隔で巡回

※ 施設によりバス運行時間と営業時間が異なる場合があります。

※ 最新の営業時間は各施設の公式サイトでご確認ください。

<https://www.artweektokyo.com/bus/>

各種プログラムの予約受付も開始！

「TOKYO HOUSE TOUR」には新たにふたつの名建築が追加

コレクター初心者向けミートアップ

世界最高峰のアートフェアである「アートバーゼル」と共同で実施する3セッション構成のプログラム。現代アートをコレクションしたいあらゆる人を対象に、アート鑑賞や購入の方法から世界のアート界の最新情報、コレクションの傾向までを立体的にとらえる手引きとなるトークを実施します。

会場：AWT BAR（港区南青山 5-4-30 emergence aoyama complex）

日時：11月4日（水）14:00～15:30

11月5日（木）11:30～13:00

11月6日（金）15:00～16:30

料金：参加無料、予約必須（定員あり）

詳細および事前申し込みは[こちら](#)から。

<https://www.artweektokyo.com/events-meetup2026/>



2025年度のミートアップの様子。

コレクター向けガイドツアー

アートコレクター向けのガイド付きバスツアー。AWT 参加ギャラリーのほか、特別展「AWT FOCUS」やポップアップバー「AWT BAR」といったプログラムを、ギャラリストやスタッフの解説を聞きながら巡ります。

会場：AWT FOCUS など

日時：11月6日（金）、11月8日（日）13:00～18:00

料金：参加無料、予約必須（定員あり）

詳細および事前申し込みはこちらから。

<https://www.artweektokyo.com/events-awtguidetour2026/>



2025 年度のガイドツアーの様子。

キッズ・ユース向けアートウォーク & ワークショップ

AWT 参加施設を巡りながら、作品を見て、感じて、「自分だけの見方」を集めていくアート鑑賞プログラムです。親子、子供からユースまで幅広い年齢を対象に実施します。

会場：AWT BAR（港区南青山 5-4-30 emergence aoyama complex）

日時：11月6日（金）～ 8日（日）10:00～18:00

料金：参加無料、ワークショップのみ予約必須（定員あり）

詳細および事前申し込みはこちらから。

<https://www.artweektokyo.com/events-kidsworkshop2026/>



2025 年度のキッズ・ユース向けガイドツアー & ワークショップの様子。

アート教育付き託児サービス

アート教育の場も兼ねた託児サービス。日英バイリンガル対応で、最大3時間まで有料で利用いただけます。生後6か月から6歳以下の乳幼児が対象です。

会場：AWT BAR（港区南青山 5-4-30 emergence aoyama complex）

日時：11月6日（金）～ 8日（日）10:00～17:45

料金：有料、予約必須（定員あり）

詳細および事前申し込みはこちらから。

<https://www.artweektokyo.com/events-childcare2026/>



2025 年度のアート教育付き託児サービスの様子。

TOKYO HOUSE TOUR



篠原一男が設計を手がけた「地の家」。Photo by Ishida Architects Studio. Courtesy Taro Nasu.

「TOKYO HOUSE TOUR」は、東京の街に佇む名住宅建築を巡る建築プログラム。東京に現存する住宅建築の保存継承、そして東京の暮らし全般に関心のある方たちに向け、2024年に始まりました。本年は、東京都心に建つ東孝光設計の住宅建築「塔の家」、そして自然が残る郊外に立つ住宅建築として伊東豊雄が設計した「花小金井の家」、「小金井の家」（現・ムジナの庭）を訪れるほか、新たに篠原一男設計の「地の家」と坂本一成設計の「代田の町家」が訪問先に加わります。企画監修は妹島和世です（協力：妹島和世、東理恵、ムジナの庭、TARO NASU、Gardar Eide Einarsson、本田美奈子）。

日時：11月5日（木）～7日（土）

料金：有料、予約必須（定員あり）

詳細および事前申し込みはこちらから。

<https://www.artweektokyo.com/events-tokyohousetour2026/>

AWT TALKS ディレクターズ・カンバセーション 「新たなる希望——次世代の美術館を想像する」



2025年度の「ディレクターズ・カンバセーション」の様子。

2025 年にスタートした「ディレクターズ・カンバセーション」は、世界有数の美術館を牽引するリーダーたちが、運営や企画、社会との関わりについて議論するトークセッションです。今年のテーマは「新たな希望——次世代の美術館を想像する」。次世代の美術館は、新しいコミュニティとどう関係を築き、次の 100 年に向けてどのような革新を遂げるべきなのか。東京都現代美術館の飯田志保子をモデレーターに迎え、米国のウォーカー・アート・センターを牽引するメアリー・セルティ、香港のアジア最大級の視覚文化美術館 M+ の立ち上げから深く関わるドリアン・チョン、そしてミュンヘンのハウス・デア・クンストで領域横断的なプログラムを仕掛けるアンドレア・リッソーニの 3 名が語ります。

日時：11 月 5 日（木） 17:00～18:30（16:30 開場）

場所：東京都現代美術館 講堂

定員：190 名

料金：無料、事前申込制（英語・日本語 同時通訳あり）

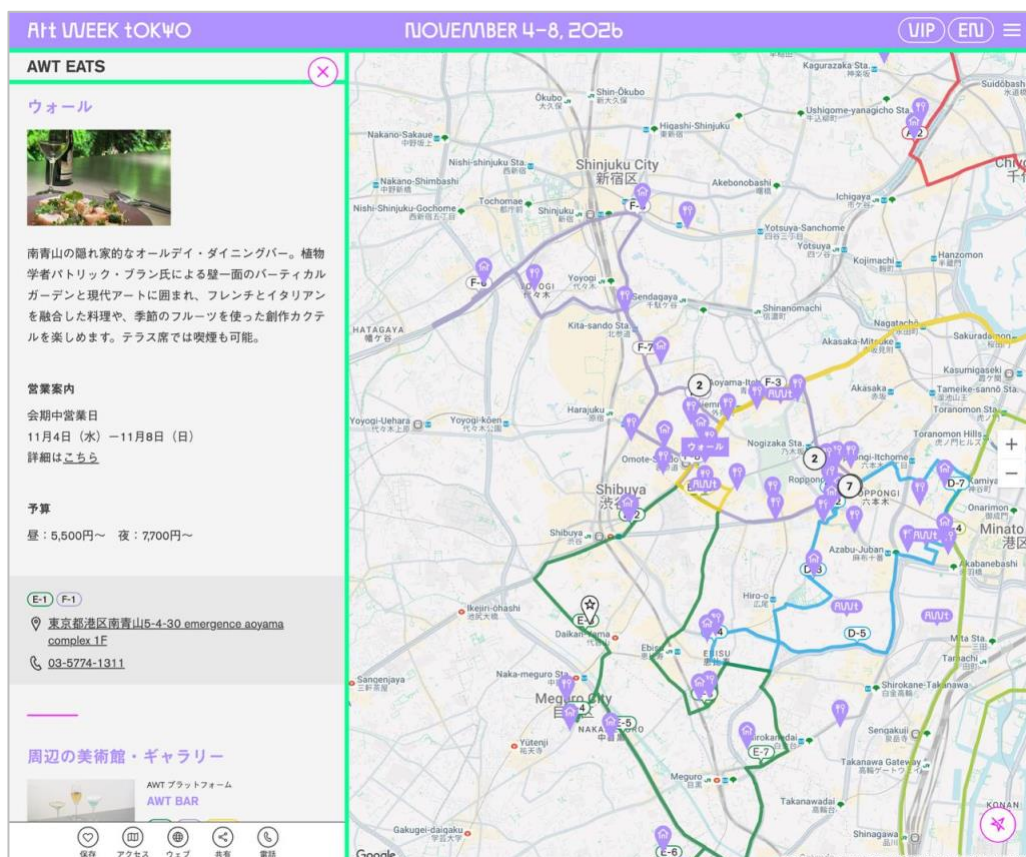
詳細・お申込みはこちら

Peatix：<https://awttalks2026directorsconversation.peatix.com>

ArtSticker：<https://artsticker.app/events/162957>

マップで「AWT EATS」を公開

秋のアート巡りを彩る取り組みとして、今年も AWT 参加施設周辺の飲食店を紹介する「AWT EATS」を公開しました。ウェブサイトのマップページでは、それぞれの土地をよく知る AWT 参加施設の方々からの推薦をもとに選ばれた、個性豊かな 53 軒の飲食店をご紹介します。



今年も会期中はコラテラルイベントを開催

AWT 会期中は東京で様々なアートイベントが開催。コラテラルイベント（関連イベント）として、その一部をご紹介します。

アートのある暮らし @ 松屋銀座

松屋銀座 7 階 THE HOME にて、松屋銀座公式オンラインの世界観を表現した展覧会「アートのある暮らし」を開催。現代アートを牽引する小山登美夫ギャラリー、アノマリーを迎え、家具とアート作品を組み合わせたインスタレーションを展開します。

会場：東京都中央区銀座 3-6-1 松屋銀座 7 階 THE HOME

日時：11 月 4 日（水）～7 日（土）、9 日（月）11:00～20:00

11 月 8 日（日）11:00～19:30

11 月 10 日（火）11:00～17:00

料金：入場無料

詳細：<https://www.matsuyaginza.com/jp/series/ginza-art-life/primary-art>

AWT×SHIBUYA PARCO ART NIGHT「REVOLIC -Revolution Holic/革命中毒」

アーティストデュオの MES が渋谷 PARCO でアートウィーク東京のメインパーティーをプロデュース。DJ や VJ などによる一夜限りのパフォーマンスに加え、4 階「PARCO MUSEUM TOKYO」では MES の作品も展示予定です。（作品展示は 20:30 最終入場）

会場：渋谷 PARCO 10F PBOX STND（渋谷区宇田川町 15-1）

日時：11 月 4 日（水）20:00～24:00

料金：一般 2,000 円（税込）／U-25 1,000 円（税込）

詳細：<https://art.parco.jp/shibuya/detail/?id=1969>

国際文化会館「AI と哲学」

国際文化会館のアートデザイン部門ディレクターである長谷川祐子が異なる分野のゲストスピーカーを迎えて開催するクロストーク。今年は哲学者のユク・ホイとゲーム AI の専門家である三宅陽一郎が、AI が私たちの思考に与える影響について考察します。

会場：国際文化会館（港区六本木 5-11-16）

日時：11 月 5 日（木）18:00～19:30

料金：参加費：一般 3,000 円、国際文化会館会員 2,000 円、学生 1,000 円

詳細：<https://ihjct261105.peatix.com/>

セラカイ・スタジオ「セラカイ・スタジオ パフォーマンス：チェン・リャンロン（陳亮融）」

パス表参道で開催される「Certainly Tokyo」展の一環として、チェン・リャンロン（陳亮融）による持続的パフォーマンス「ebb is to flow as wax is to wane」を発表します。

会場：東京都渋谷区神宮前 5-6-5 パス表参道

日時：11月4日（水）、5日（木）16:00～20:00

料金：入場無料

詳細：<https://www.serakai.studio/>

国際美術展 TOKYO ATLAS

東京の臨海エリア（台場、青海、天王洲）を舞台に、アートを通じて都市の新たな風景を描き出す今年初開催の美術展。建畠哲と三木あき子がアーティスティックディレクターを務め、草間彌生の大型作品や、フランスのアブラハム・ポワンシュヴァルによるパフォーマンスなどを各所で展開する（「AWT BUS」のバス停「C5」から TOKYO ATLAS の会場のひとつである WHAT MUSEUM まで徒歩 5 分）。

会場：東京都内の台場・青海・天王洲エリア

日時：10月10日（土）～ 12月20日（日）10:00～17:00

料金：入場無料

詳細：<https://tokyoatlas.jp/>

アートウィーク東京は、東京都および東京国際文化芸術祭実行委員会が主催し、秋冬の東京を文化で彩る新たな文化芸術祭「ARTE TOKYO（アルテ・トーキョー）」（2026年10月10日～12月31日開催）にパートナープログラムとして参加しています。

「ARTE TOKYO」の詳細はこちら。

<https://artetokyo.jp/ja/>

参加施設（2026年10月1日時点）

AWT FOCUS（10軒）

ウェイティングルーム「逆立つ翼のパッチワーク」

XYZ コレクティブ「増塩太郎、ソフィー・ニス」

思文閣銀座「メアリー・ウェザーフォード：Komorebi」

スカイザバスハウス「土屋信子：ハートのA」

スペースアン「ジュリアンノックス：How Much Light Must I Consume？」

タケニナガワ「鴨治晃次：Everyday Life」

ミサコ&ローゼン「エリカ・ヴェルズッティ：彫刻の肖像」

ミサシギャラリー「青柳菜摘：有り得べき言葉、有り得べき世界」
無人島プロダクション「日本国憲法展 2026」
ユタカキクタケギャラリー「The Quiet」

美術館・インスティテューション（14 軒）

アーティゾン美術館「ジャム・セッション 石橋財団コレクション×藤井光 WHOSE LIGHT? —だれのひかりか」
エスパス ルイ・ヴィトン東京（展覧会名は後日発表）
銀座メゾンエルメス フォーラム「アン・ヴェロニカ・ヤンセン 東京、銀座 5 丁目 4-1」
国立新美術館「少女漫画・インフィニティ 萩尾望都×山岸凉子×大和和紀 三人展」
資生堂ギャラリー「今はいつのことかー 小村雪岱と玉山拓郎」
シャネル・ネクサス・ホール「ナショナル ポートレート ギャラリー展 アイコンとイメージメーカー」
東京オペラシティ アートギャラリー「種と根っこ — 都市の耕し方」
東京国立近代美術館「竹久夢二 時代を創る表現者」
東京都現代美術館「多田美波 — 光、凜と ゆれる」
東京都写真美術館「デュエット——アジア・コンテンポラリー」
東京都庭園美術館「マリメッコ展 模様のちから」
ポーラ ミュージアム アネックス「清川あさみ | 名和晃平 Invisible Garden」
森美術館「森万里子：燦燦（さんさん）」
ワタリウム美術館「没後 20 年 ナムジュン・パイク | じゅげむ展」

ギャラリー（32 軒）

ギャラリー38「ステファニー・クエール LIVING SOIL: Sacred Animal」
青山目黒「日本国憲法 2026 展」
アノマリー「東山詩織 個展／小林耕平 個展」
MEM「『もの』と『こと』と『対話』をめぐって」
カイカイキキギャラリー「Utanhole Zipgunslingers」
カナカワニシギャラリー「Everyday, With a Delay」
カヨコユウキ「アナ・グランツ Buzz only」
ケンナカハシ「那須佐和子 敗走者のためのブギウギ」
コウサクカネチカ「館鼻則孝 Heel-less Shoes」
コタロウヌカガ「コア・ポア Points of Entry」
ギャラリー小柳「須田悦弘 個展」
小山登美夫ギャラリー「日高理恵子 個展」
シュウゴアーツ「安田侃 個展」
スタンディングパイン「ジョエル・アンドリアノメアリソア LE PALAIS DES VENTS（風の宮殿）」
セイソン&ベネティエール「クレア・シェニエ The Wind Left in My Hand」
タカ・イシイギャラリー「スターリング・ルビー OCEAN」
タロウナス「フィリップ・パレーノ 個展」
東京画廊+BTAP「菅木志雄 works on paper」

ナンヅカ「蔦谷喜一展 ～曾田コレクション～」
日動コンテンポラリーアート「劉致宏（リュウ・ジーホン） パーキング」
パーセル「BIEN 個展」
ハギワラプロジェクト「土肥美穂展」
PGI「竹之内祐幸 SLEEPWALK」
ファーガス・マカフリー「ポール・ウォラック DIVISIBLE -分けられる」
ファイギュア「岡田理 個展」
ペース・ギャラリー「La Pêche miraculeuse」
ペロタン東京「TIME TO SHINE! (the salesmen)」
ポエティック・スケープ「野村浩 NANIGASHI Murmuration」
マホクボタギャラリー「小川信治 マリアの梯子」
ミヅマアートギャラリー「棚田康司 愛をみる」
ユミコチバアソシエイツ（展覧会名は後日発表）
リーサヤ「安藤晶子 CHORUS」

開催概要

アートウィーク東京

名称：アートウィーク東京（欧文：Art Week Tokyo、略称：AWT）
会期：2026 年 11月4日（水）～8日（日）10:00～18:00
会場：都内の参加美術館・ギャラリー、AWT FOCUS、AWT BAR ほか各プログラム会場
主催：一般社団法人コンテンポラリーアートプラットフォーム
提携：アートバーゼル（Art Basel）
特別協力：文化庁

アートウィーク東京モビールプロジェクト

名称：アートウィーク東京モビールプロジェクト
会期：2026 年 11月6日（金）～8日（日）10:00～18:00
主催：東京都／アートウィーク東京モビールプロジェクト実行委員会
料金
- AWT BUS の乗車無料。
- 参加ギャラリーの入場無料。参加美術館では AWT 会期中に限り所定の展覧会にて AWT 特別割引適用。

参加施設

参加施設および、各施設の展覧会情報は公式サイトで順次公開しています。
<https://www.artweektokyo.com/exhibitions/>

コーポレートパートナー

オフィシャルパートナー：SMBC グループ

ホテルパートナー：オークラ東京
ビバレッジパートナー：ルイナール
リードメディアパートナー：フィナンシャル・タイムズ
メディアパートナー：The Art Newspaper
メディアパートナー：日本経済新聞社
メディアパートナー：ArtReview Asia
メディアパートナー：Design Anthology

公式サイト <https://www.artweektokyo.com>
Instagram <https://www.instagram.com/artweektokyo>
Facebook <https://www.facebook.com/artweektokyo>
X <https://x.com/ArtWeekTokyo>
YouTube <https://www.youtube.com/@artweektokyo6594>

「アートウィーク東京」運営体制概要

アートウィーク東京は、アートバーゼルとの提携および文化庁の協力を受け、一般社団法人コンテンポラリーアートプラットフォームが主催します。また、都内のアートアクティビティの体験を創出する「アートウィーク東京モバイルプロジェクト」を、東京都とアートウィーク東京モバイルプロジェクト実行委員会の主催により実施します。

「アートウィーク東京モバイルプロジェクト」概要

東京都とアートウィーク東京モバイルプロジェクト実行委員会が主催。アートウィーク東京の会期中に都内各地に広がる主要なアートのスペースをつなぐ「AWT BUS」を運行するほか、会期前から会期中にかけて子どもや若者、アートコレクターを目指す方などを対象とする様々なプログラムの展開や、国内外のキュレーターを招聘したシンポジウムなどを通じて、幅広い鑑賞者層に対してアートアクティビティの体験機会を創出。国内のアートに対する関心の裾野拡大を目指します。実行委員は、片岡真実（森美術館館長）、北山浩士（東京国立近代美術館館長）、渡邊努（東京都現代美術館副館長）、塩見有子（NPO 法人アーツイニシアティヴトウキョウ[AIT]理事長）、蜷川敦子（アートウィーク東京ディレクター／一般社団法人コンテンポラリーアートプラットフォーム代表理事）。

「アートバーゼル」概要

世界最高の規模と質を誇る近現代美術のアートフェア「アートバーゼル」。毎年、拠点となるスイスのバーゼルをはじめ、香港、マイアミビーチ、パリで開かれるアートフェアには、世界各地から大勢のアートファンや専門家が集まる。（公式サイト：<https://www.artbasel.com>）

【過去のプレスリリースはこちらからご覧いただけます】

https://prtimes.jp/main/html/searchrlp/company_id/141413

報道関係のお問い合わせ

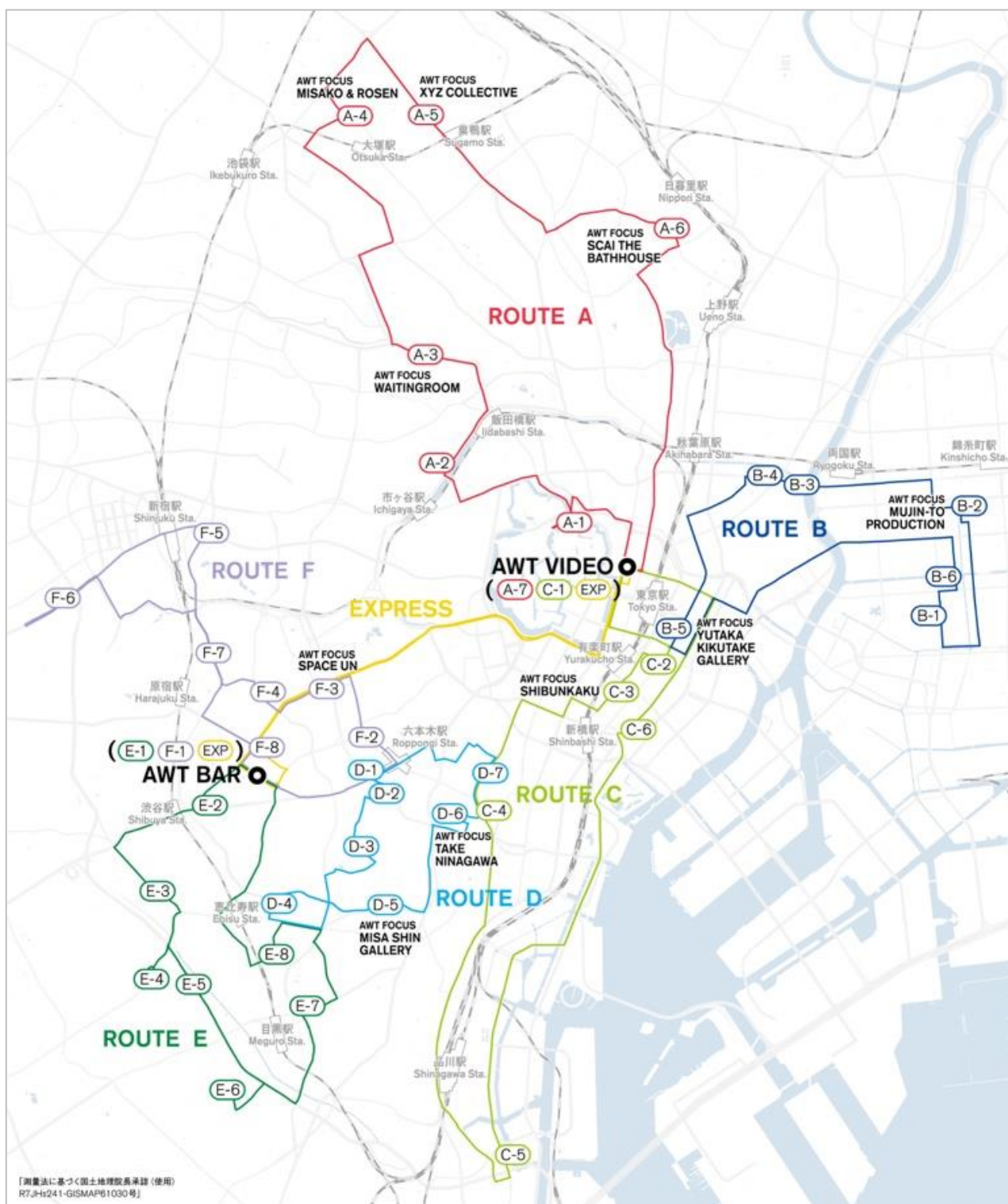
アートウィーク東京 PR 事務局（WAG, Inc.）

担当：会津・林・秋山／TEL：03-5791-1500／Email：awt_pr@wag-inc.co.jp

参考資料：アートウィーク東京 バスルート

※バス停や参加施設の詳細な位置情報は AWT 公式サイトにてご確認ください。

<https://www.artweektokyo.com/bus>



Aルート



Dルート



Bルート



Eルート



Cルート



Fルート



直行便

